

現況報告

10月2日に炭出しをしようとしたのですが、中に火がついていました。水をかけ再度蓋をしました。翌3日に再度窯の中を確認すると、まだ火が残っていました。どこかからか空気が入っているようです。

協力して頂いた方や応援して下さる方には申し訳ない気持ちで胸が痛みますが、師匠たちと話し合いをした結果、造り直しをすることにしました。

作って壊す。この作業からも少しですがいろんなものが見えてきました。原因を考慮しながら、また今回が師匠達から窯造りを学べる最後の機会と心得てしっかり励んでいきたいと思えます。



床や側積みも前回よりも可能な限り入念に作業をしています。

10月のイベント



時山刺し子展の様子



バルーンリリースの様子

7日(土)に時山刺し子展がありました。市内外からたくさんの方が見えました。時山刺し子はまだまだ元気です！

22日(日)は町民運動会がありました。競技内容が面白いのはもちろん、時小閉校記念のバルーンリリースが行われるなど、スタッフさんの努力はいかほどだったかと想像すると心に込み上げるものがありました。また、参加者の一生懸命な姿は情熱的で、つい私も張り切ってしまいました(笑)。

28日(土)にはもんでこかみいしづが開催されました。ステージショーもとても盛り上がり、とても興味深く見学させて頂きました。

出店にあたり声をかけて頂いた方、ありがとうございました。とても励みになりました！

鍼灸師としての雑感 ~寒暖差~

急に寒くなってきました。また、一日の寒暖差も気になりますね。体がなかなかついていきません。

有名な話になりますが、温めた方がいい部位は、首・手首・足首と腰・お腹です。10分から15分ほど温める方がいいですが、体がついていかないときは常時温めるのもいいと思います。寝るときは靴下をはかずに、湯たんぽを足の近くに置くのもいいでしょう。

また、お風呂の前後の寒暖差をなくすことも大切ですね。濡れた状態で寒い脱衣所に入ると急激に熱を奪われるので、軽く拭いてから脱衣所に行く、脱衣所を温めておくなどの工夫が大切ですね。

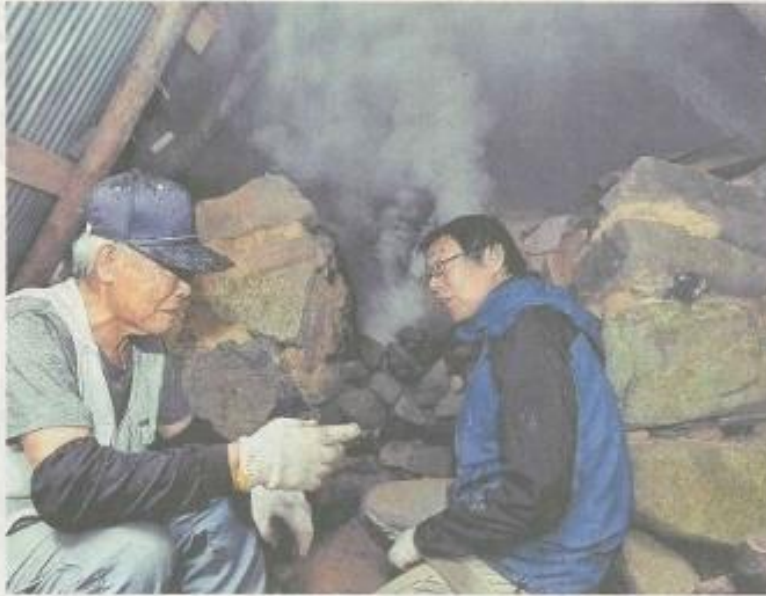


最近レンジで温めるいろんなタイプのカイロもありますね

低温やけどや火の取り扱いには注意しましょう



時匠の川添美治さん(左)から火入れした窯の中の状態を聞く中村明弘さん
＝大垣市上石津町細野



時山炭復活ののろし

かつて製炭業が盛んだった大垣市上石津町の時山地区で生廃された「時山炭」の継承に取り組み市地場おこし協力隊の中村明弘さん(46)＝同町時山＝が、住民の協力で地区のほど近くにあった窯跡を修繕し、新しい窯を完成させた。製炭に向けた火入れ作業が11日行われ、木材の炭化の始まりを知らせる青白い煙が上がった。(亀山大樹)

上石津の中村さん 新窯完成、火入れ

山間にたたずむ新しい炭焼き窯
＝同



「先人の知恵を継ぐ」

「ようやくここまでに来た」。牧田川のほとりに建つ新しい炭焼き窯で、中村さんはほっとした表情を見せた。窯はトタンぶきの三角屋根で、約500キロもの木材を収められる。煙や火の様子を見ながら、炭焼きの師匠の一人、川添美治さん(88)と窯の内部の様子を確認かめていた。

昨年夏の前任の末使っていた窯が安全に製炭できなくなると、地区住民でついに「時山炭保存会」と修繕できる窯を探した。周囲の石垣を残して潰れ、土に埋もれていたが、道筋から近く都合のいい窯が見つかった。

「不純物が少なく、窯作りに向く窯跡の土も残っていた」と川添さんへは話す。7月に修繕を始め、土を掘って石を積み直し、ドーナツ状に土を固めていく。中には支えとして最初に炭焼きする木材を立てて並べた。住民が自然と作業を手伝い、建設会社が屋根の木材やトタンを提供してくれた。保存会の川添公明会長(67)は「窯を作る際に住民で助け合った節の光景を見る(まぶさ)と語り返る。

土を乾かすため、ひびが入らないよう慎重に火を入れ、窯を温めていく。川添美治さんは「新しい窯にはどんな癖があるか分からない。原木が立派な炭になっ

て初めて完成」と弟子を激

励する。中村さんは「製炭」
「た窯作りもしっかりと覚
だけには時山炭の継承はで
きない。先人の知恵が詰ま
と話した。

たかさんのご協力で完成はしましたが、窯に空気が入り込んでいたため、心苦しいですが造り直しします。誠に申し訳ございません。もう少し、お待ちください。